

# Rotary



## Rotary Opens Opportunities



# ロータリーは 機会の扉を開く



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 渡 邊 有 規      幹 事 田 原 聖      会報・雑誌委員長 伊藤 繁幸

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ      例会日 毎週火曜日(12:30~)      事務局 宇都宮市東宿郷3-2-5-803 TEL.028-638-5125 FAX.028-638-5128

通算2907号 2021年5月11日(曇り) 第33回例会 会員数114名 列席多数

### ハイブリッド例会

点 鐘 渡邊 有規会長  
司 会 副SAA 小林(弘) 会員

- ◇国歌「君が代」
- ◇ロータリーソング「四つのテスト」  
※マスクを着用し、心の中で斉唱
- ◇本日のランチ 持ち帰り弁当



ビジター紹介 倉井会長エレクト

- ◇宇都宮東警察署  
署長 高木 克尚 様(卓話講師)  
警部補 小林 拓馬 様
- ◇(株)アイ・シー・エス 取締役社長  
菊池信寿様 (オブザーバーとして参加)
- ◇米山記念奨学生 テット チャンソティア君

会長挨拶 渡邊(有) 会長

皆様、こんにちは。本日もお忙しい中、ご参加、嬉しく思っております。先日もお話をさせていただきましたが、ハイブリッドで例会を行うことは日常のことと変化し、5月、6月とオンラインも最高の形で変化させたいと思っています。

本日は、高木克尚署長にお越しいただきまして、卓話をいただきます。ちょうど1月に、職業奉仕委員会で、優良警察官表彰をさせていただきました。鈴木明委員長、田原幹事とともに東警察署にお邪魔させていただいて、コロナ禍の中でしたので、当時の本澤署長に表彰状及び記念品を受け取っていただき、後日、感謝の気持ちとともに、ご本人へ渡していただくようお願い致しました。

第2550地区のロータリークラブで県の医師会に500万円の寄付をした記事が新聞に掲載されました。新型コロナウイルスの対策に役立ててもらおうと太城パストガバナーが提案し、森本ガバナーが中心となり行われました。ガバナーは「医療の最前線に身

を置く医師らは命がけでコロナと向き合っている。これから本格化するワクチン接種は労力と時間を要する。少しでもお役に立てば。」とお話しされ、県医師会の



稲野秀孝会長に手渡しました。稲野会長から「ワクチン接種は今までにない特別な大事業。義援金は県内の隅々までワクチンが普及するように役立てていきたい。」とのことでした。私は地区の社会奉仕の副委員長として、田原幹事も地区の公共イメージ委員長として同席しました。稲野会長には、5月25日の卓話をお願いしております。

今年度は後1、2ヶ月ですが、次年度にも繋げて行く活動をしていきたいと思っています。

### ◇奨学金の授与

米山記念奨学生 テット チャンソティア君



### 幹事報告

田原幹事

- ◇ロータリーレート 5月は1ドル109円
- ◇本日18時30分~ ホテルニューイタヤにて 渡邊年度第12回5月定例理事会開催。
- ◇趣味の会の代表の方へお願い  
2021~22年度現況報告書に掲載する報告書を事務局へご提出ください。



### 委員会報告

#### ◇親睦委員会

<誕生祝い・5月>

塚越委員長

菊地(憲) 副委員長

## 会員誕生

蜂須 賀勲、長谷川恭弘、平野 利一、  
石川 元信、片嶋 常隆、長野 榮夫、  
大塚 宏一、螺良 昭人、塚越 淳史、  
横堀 学

## 各会員

## 夫人誕生

細谷 俊夫、飯泉 修一、小林 正明、  
小菅 庸二、黒澤 佳樹、太城 敏之、  
山下 大介

## 各会員の奥様

・市内10RC親睦ゴルフ大会成績発表 松山委員

参加者 東RC 26名 全体 113名



ドラコン賞 シニア・一般 田原聖  
Gシニア 塚田宗雄 尾野崎孝夫  
ニアピン賞 倉井章 片嶋常隆  
団体の部 第3位  
個人の部  
シニア・一般 該当者 渡邊和裕  
グランドシニアの部  
準優勝 若井 勲  
第3位 野口忠男  
飛び賞 荻原耕三 柳田慎治  
ブービーメーカー賞 尾野崎孝夫 各会員



## 卓 話

「治安情勢について」

宇都宮東警察署 署長 高木克尚 様



皆さん、こんにちは。本日は、治安情勢の中で交通事故の現状と対策など、お配りした資料をもとにお話させていただきます。

※はじめに自己紹介がありました。

昨年の栃木県内の交通事故死者数は60名でした。グラフを見ると、昭和22年から統計をとっています。昭和23年が64名ですので、戦後間もない頃

と同じような死者数にまで減っています。昭和20年代は車も少なく、バスやトラック、外国製の車が少し走っていたような状態です。昭和30年代にはいって、昭和33年にホンダのスーパーカブが爆発的にヒットしました。昭和33、34年とバイク事故が非常に増え、昭和35年に道路交通法という法律が出来ました。スピード違反や信号無視の取り締まり等の結果、いったんは、交通事故は落ち着きました。昭和40年代に入ると、昭和41年に日産のサニーが41万円で、昭和42年にトヨタのカローラが43万円で発売され、当時のサラリーマンの平均年収が45万円でしたので、年収が車を上回り、一気にマイカーブームがやってきました。交通事故ももの凄く増え、昭和45、46年に全国的にピークになります。栃木県でも昭和46年に485人、全国では16,000人と、交通事故が多発してしまいました。この当時、道路には安全という認識がなく、道路も舗装されていなかったり、横断歩道や歩道橋、信号も少なかったと思います。昭和43年に特別交付金の制度が出来て、交通切符の反則金など信号機や歩道橋を作るお金に充てられるようになりました。自動車の従量税や所得税、ガソリン税などは道路を整備し、安全にするために使用されました。これにより、交通安全施設等が充実し、交通事故は昭和46年をピークに昭和の後半には落ち着いたと言われています。バブル期にはいり、車が一人1台となり、若者の無謀な運転による交通事故が非常に増えました。ただ、交通事故の発生件数は上がっていますが、死亡事故は減っております。人の命は守ろうと、いろいろな法整備が変わりました。原付バイクはヘルメットをかぶる、シートベルトも法制化されました。昭和62年、ホンダのレジェンドに初めてエアバックが付きまして。また、外部突起物規制で、はねられた人のダメージを減らすよう、フェンダーについていたミラーがサイドミラーに変わりました。衝突安全ボディで、単独事故で電柱等にもぶつかっても、コックピット内は守ります。命を守ろうということで、死亡事故は減ってきました。しかし、悲惨な事故はなかなかなくなりません。過失運転致死傷罪の他に、危険運転罪の法律も出来ました。

最近の事故の傾向についてお話します。交通死亡事故は薄暮時間帯に多く、約8割の車が前照灯を点けていません。少しでも暗くなってきたらライトを点けていただき、周りの人に自分の車を発見してもらうようにしていただければと思います。そして、この5年間、夜間に人をはねてしまった事故はすべてロービームです。夜間はスピードを控えて、原則ハイビームでお願いします。また、高齢者の話ですが、高齢者の事故が非常に多いので、政府の方で、75歳以上のしっかり運転できる方にアンケート調査をしました。その中で、将来認知症になってしまい、医者や家族から運転を辞めた方がいいと言われても、約6割が免許

を返納せず、運転するとの回答がありました。実際に、高齢者の方がアクセルとブレーキを踏み間違えた、という事故も起きています。ご家族の中で相談がありましたら、宇都宮東警察署でも窓口がありますので、アドバイスができると思います。

次に諸外国との比較についてです。人口10万人当たりでどの位の死者数か、ということです。表をみると、日本は、アメリカや韓国等に比べたら少ないのではないかと、と思いますが、日本より死者数が少ない国があります。イギリスで、2.8人です。日本は街の中で高齢者がはねられる事故が多いのですが、ヨーロッパはそれが少ないです。その一つの理由として、横断歩道があります。3年前に名城大学のイギリス人の教授の方が「キラージェブラ」という表現を使いましたが、日本の横断歩道は殺人的に

怖い、ヨーロッパでは横断歩道を渡れば必ず止まってくれますが、日本では止まってくれないとのことです。それがマスコミで注目されて、全国47都道府県の横断歩道停止率が調査されて発表されましたが、初年度、栃木県はワースト1でした。横断歩道は全ての国で、歩行者が優先と決まっています。皆様も気をつけていただければと思います。

交通事故は一瞬で起きます。皆様、ご家族、従業員の方を含めて、交通事故の抑止に努めていただき、悲惨な交通事故を一件でも無くすように、警察も頑張りますが、皆様もそれぞれの職場でちょっとした話題でふっていただければと思います。共に、宇都宮市、東管内の安全を守っていかれたらと思っていますので、引続き、ご理解、ご協力お願い申し上げます。